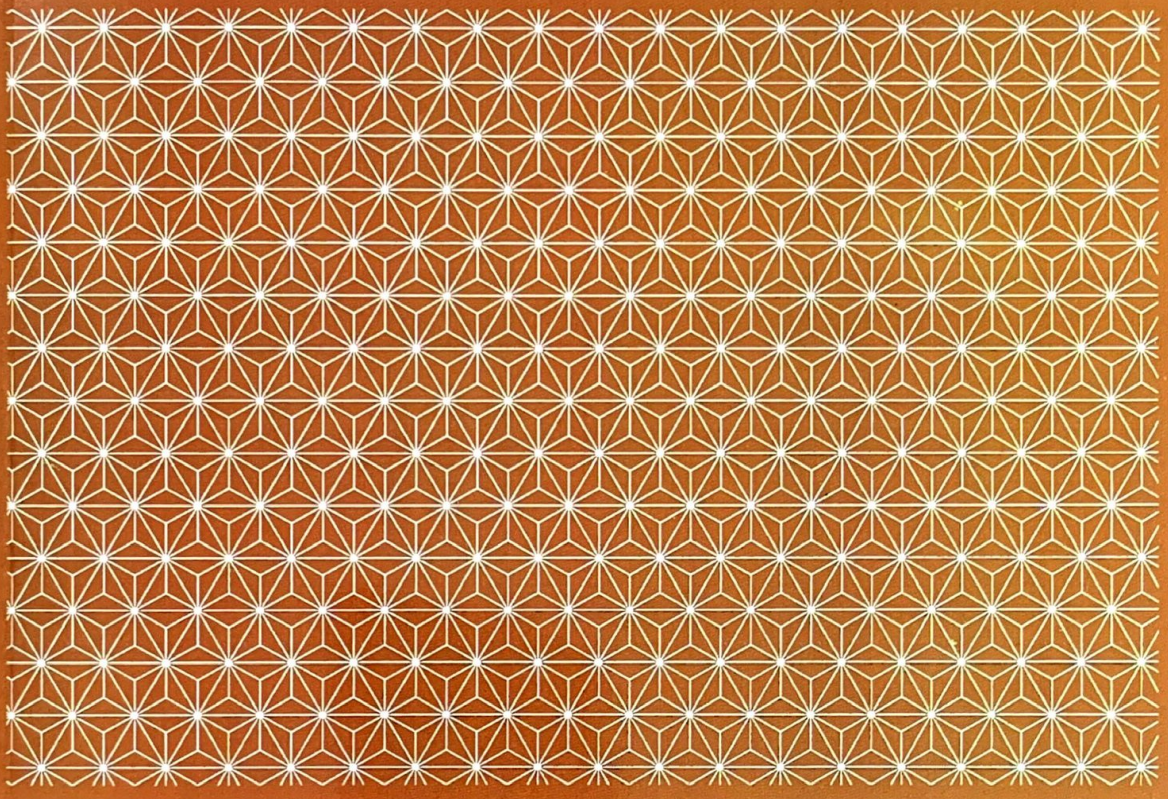
新完全マスター 文法

日本語能力試験 N1



友松悦子・福島佐知・中村かおり 著

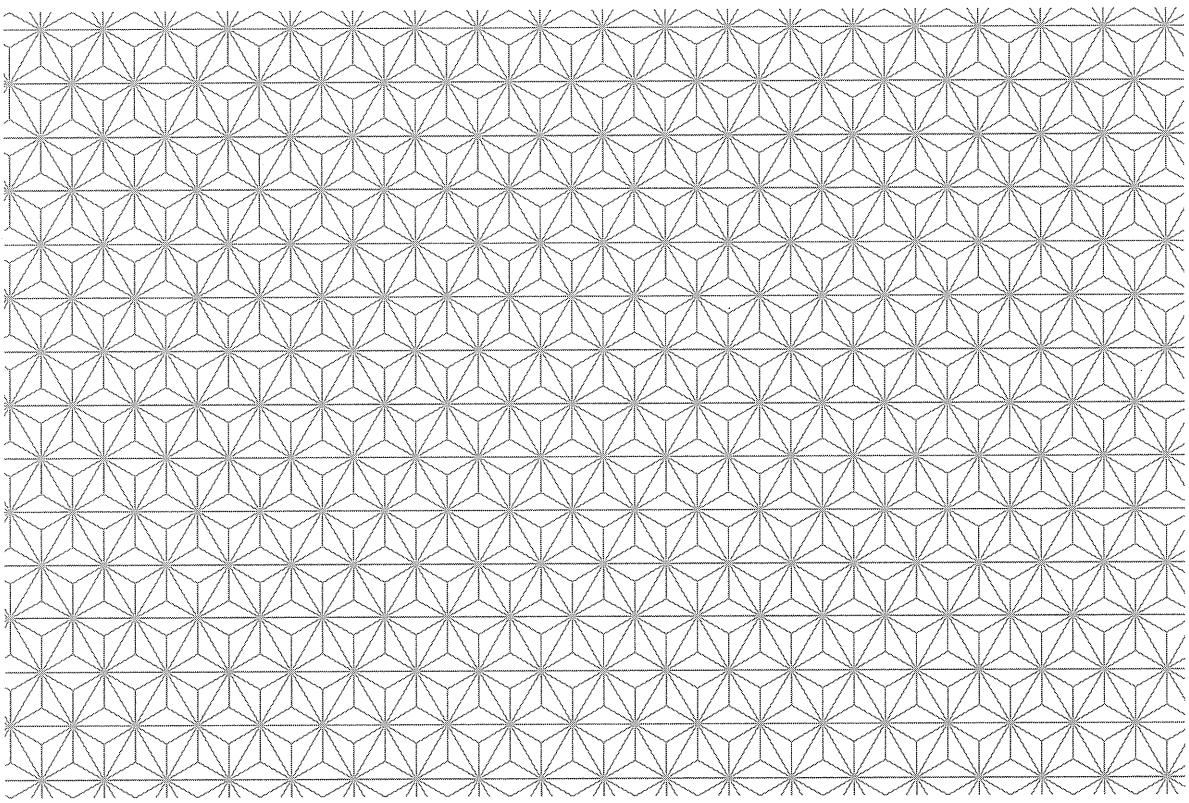
- N1レベルで必要な157の文法形式を学習。
- 問題形式ごとに、必要な知識やスキルを効率的に学ぶ。
- 充実した解説と練習問題で「文章の文法」に対応。

スリーエーネットワーク

7

新完全マスター 文法

日本語能力試験 N1



友松悦子・福島佐知・中村かおり 著

スリーエーネットワーク

©2011 by Tomomatsu Etsuko, Fukushima Sachi, and Nakamura Kaori

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

Published by 3A Corporation.
Trusty Kojimachi Bldg., 2F, 4, Kojimachi 3-Chome, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083, Japan

ISBN978-4-88319-564-0 C0081

First published 2011
Printed in Japan

目　次

はじめに

本書をお使いになる方へ viii

問題紹介

Ⅰ　文の文法１（文法形式の判断） 2

Ⅱ　文の文法２（文の組み立て） 3

Ⅲ　文章の文法 4

実力養成編

第１部　文の文法１

Ⅰ　ことがらを説明する☆

１課　時間関係 8

1．～が早いか

2．～や・～や否や

3．～なり

4．～そばから

5．～てからというもの(は)

6．～にあって

２課　範囲の始まり・限度 12

1．～を皮切りに(して)・～を皮切りとして

2．～に至るまで

3．～を限りに

4．～をもって

5．～といったところだ

３課　限定・非限定・付加 16

1．～をおいて

2．～ならでは

3．～にとどまらず

4．～はおろか

5．～もさることながら

４課　例示 20

1．～なり…なり

2．～であれ…であれ・
～であろうと…であろうと

3．～といい…といい

4．～といわず…といわず

問題(１課～４課) 24

５課　関連・無関係 26

1．～いかんだ

2．～いかんにかかわらず・
～いかんによらず・～いかんを問わず

3．～をものともせず(に)

4．～をよそに

5．～ならいざしらず

６課　様子 30

1．～んばかりだ

2．～とばかり(に)

3．～ともなく・～ともなしに

4．～ながらに(して)

5．～きらいがある

７課　付随行動 34

1．～がてら

2．～かたがた

3．～かたわら

はじめに

日本語能力試験は、1984年に始まった、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験です。受験者が年々増加し、現在では世界でも大規模の外国語の試験の一つとなっています。試験開始から20年以上経過する間に、学習者が多様化し、日本語学習の目的も変化してきました。そのため、2010年に新しい「日本語能力試験」として内容が大きく変わりました。新しい試験では知識だけでなく、実際に運用できる日本語能力が問われます。本書はこの試験のＮ１レベルの問題集として作成されたものです。

まず「問題紹介」で、問題の形式とその解法を概観します。次に「実力養成編」で、三つの問題形式別に、必要な言語知識を身につけるための学習をします。最後に「模擬試験」で、実際の試験と同じ形式の問題を解いてみることによって、どのくらい力がついたかを確認します。

■本書の特徴

①旧出題基準１級の文法形式に加え、Ｎ１レベルで必要だと思われるものも網羅

②文法形式の全体を概観できるように、主観を含む度合いによって大きく三つに分類

③やみくもに暗記するのではなく、効率的に整理して学習することを示唆

④丁寧な解説と豊富な練習問題（小説、エッセイ等多様な文章から作成）で「文章の文法」を充実

言語を必要とする課題を遂行するためには、言いたいことが伝わる文を、そして、意味のあるまとまりを持った文章を作るための文法的知識が必要です。私たちは日ごろの授業で、試験のためだけではなく、実際の言語生活で役に立つような文法学習はどうあるべきかを考え続けてきました。本書が日本語能力試験の受験に役立つと同時に、日本語を使って学習・生活・仕事をする際にも役立つことを願っています。

本書を作成するにあたり、第一出版部の田中綾子さん、佐野智子さんには鋭いご指摘とご助言を頂きました上、原稿を丁寧に見ていただきました。心よりお礼申し上げます。

2011年6月　著者

Ⅱ　主観を含めて説明する☆☆

8課　逆接 36

1．～ところを

2．～ものを

3．～とはいえ

4．～といえども

5．～と思いきや

問題（1課～8課） 40

9課　条件 42

1．～とあれば

2．～たら最後・～たが最後

3．～ようでは

4．～なしに(は)・～なしでは・～なくして(は)

5．～くらいなら

10課　逆接条件 46

1．～(よ)うと(も)・～(よ)うが

2．～(よ)うと～まいと・
～(よ)うが～まいが

3．～であれ・～であろうと

4．～たところで

5．～ば～で・～なら～で・～たら～たで

11課　目的・手段 50

1．～べく

2．～んがため(に)

3．～をもって

12課　原因・理由 52

1．～ばこそ

2．～とあって

3．～ではあるまいし

4．～手前

5．～ゆえ(に)

問題（1課～12課） 56

13課　可能・不可能・禁止 58

1．～にかたくない

2．～に～ない・～(よ)うにも～ない

3．～て(は)いられない

4．～べくもない

5．～べからず・～べからざる

6．～まじき

14課　話題・評価の基準 62

1．～ときたら

2．～ともなると・～ともなれば

3．～ともあろう

4．～たるもの(は)

5．～なりに

15課　比較対照 66

1．～にひきかえ

2．～にもまして

3．～ないまでも

16課　結末・最終の状態 70
1．～に至って・～に至っても
2．～に至っては
3．～始末だ
4．～っぱなしだ

問題（1課～16課） 74

17課　強調 76
1．～たりとも…ない
2．～すら
3．～だに
4．～にして
5．～あっての
6．～からある・～からする・～からの

Ⅲ　主観を述べる☆☆☆

18課　主張・断定 80
1．～までもない
2．～までだ・～までのことだ
3．～ばそれまでだ
4．～には当たらない
5．～でなくてなんだろう（か）

19課　評価・感想 84
1．～に足る
2．～に堪える／～に堪えない
3．～といったらない
4．～かぎりだ
5．～極まる・～極まりない
6．～とは

20課　心情・強制的思い 88
1．～てやまない
2．～に堪えない
3．～ないではすまない・～ずにはすまない
4．～ないではおかない・～ずにはおかない
5．～を禁じ得ない
6．～を余儀なくされる／
　～を余儀なくさせる

問題（1課～20課） 92

Ⅳ　文法形式の整理

A　動詞の意味に着目 - 1 94
B　動詞の意味に着目 - 2 98
C　古い言葉を使った言い方 100
D　「もの・こと・ところ」を
　使った言い方 102
E　二つの言葉を組にする言い方 104
F　助詞・複合助詞 106
G　文法的性質の整理 108

第2部　文の文法2

1課　文の組み立て - 1
　決まった形 112
2課　文の組み立て - 2
　名詞を説明する形式 114
3課　文の組み立て - 3
　接続に注意 116

第３部　文章の文法

1課　時制 120
2課　条件を表す文 124
3課　視点を動かさない手段 - 1
　動詞の使い方、
　自動詞・他動詞の使い分け 128
4課　視点を動かさない手段 - 2
　「～てくる・～ていく」
　の使い分け 132
5課　視点を動かさない手段 - 3
　受身・使役・使役受身
　の使い分け 136
6課　視点を動かさない手段 - 4
　「～てあげる・～てもらう・
　～てくれる」の使い分け 140
7課　指示表現　「こ・そ・あ」
　の使い分け 144
8課　「は・が」の使い分け 148
9課　接続表現 152
10課　省略・繰り返し・言い換え 156
11課　文体の一貫性 160
12課　話の流れを考える 164

模擬試験

第１回 170
第２回 174

索引 178

別冊　解答

本書をお使いになる方へ

■本書の目的

本書は以下の２点を大きな目的としています。

①日本語能力試験Ｎ１対策：Ｎ１の試験に合格できる力をつける。

②「文法」能力の向上：試験対策にとどまらない全般的な「文法」の力をつける。

■日本語能力試験Ｎ１文法問題とは

日本語能力試験Ｎ１は、「言語知識・読解」（試験時間 110 分）と「聴解」（試験時間 60 分）の二つに分かれており、文法問題は「言語知識・読解」の一部です。

文法問題はさらに以下の三つの部分に分かれます。

Ⅰ　文の文法１（文法形式の判断）

Ⅱ　文の文法２（文の組み立て）

Ⅲ　文章の文法

■本書の構成

本書は、以下のような構成になっています。

問題紹介

実力養成編　第１部　文の文法１

Ⅰ　ことがらを説明する☆

Ⅱ　主観を含めて説明する☆☆

Ⅲ　主観を述べる☆☆☆

Ⅳ　文法形式の整理

第２部　文の文法２

第３部　文章の文法

模擬試験

以下に詳細を説明します。

問題紹介　試験の概要と形式別の簡単な解法を知り、全体像をつかんでから学習を始めます。

実力養成編　**第１部　文の文法１**

Ｎ１レベルの文法形式を意味機能別に学習します。どんな文脈でどのように使うか、どんな文法的性質を持っているか、どのように整理して覚えるのが効率的かなどを例文と解説を通して学びます。各課に確認の練習問題（ａ～ｃの中から最も良いものを選ぶ）があります。また、４課ごとに学習した課までの確認問題

があります。

第２部　文の文法２

文を組み立てるために必要な知識を学習します。決まった接続のし方をする文法形式、決まった言葉と一緒に使われる文法形式、名詞を説明するときの決まった形などの観点から整理して学習します。

第３部　文章の文法

視点を統一したり接続表現や指示表現などの助けを借りたりすることで、文章は意味のあるまとまりを持ちます。このような文章にまとまりを持たせるための方法を学習します。

模擬試験　実際の試験と同じ形式の問題です。Ｎ２のレベルも含め、実力養成編で学習した広い範囲から問題を作ってありますから、総合的にどのぐらい力がついたかを確認することができます。

■凡例

文を作るときは、それぞれの文型に合うように前に来る語の形を整えなければなりません。本書では接続の形を次のように表示しました。

品詞	接続する形	例
動詞	動 ない形	**言わない**　＋までも（第１部15課）
	動 ~~ない~~	**言わ**　＋んばかりだ（第１部６課）
	動 ~~ます~~	**つけ**　＋っぱなしだ（第１部16課）
	動 辞書形	**飲む**　＋なり（第１部１課）
	動 ば形	**愛していれば**　＋こそ（第１部12課）
	動 う・よう形	**起ころう**　＋と（第１部10課）
	動 て形	**生まれて**　＋からというもの(は)（第１部１課）
	動 た形	**説明した**　＋ところで（第１部10課）
	動 ている形	**手伝ってもらっている**　＋手前（第１部12課）
イ形容詞	イ形 い	**だらしない**　＋といったらない（第１部19課）
	イ形 ければ	**苦しければ**　＋こそ（第１部12課）
ナ形容詞	ナ形	**残念**　＋極まる（第１部19課）
	ナ形 な	**残念な**　＋かぎりだ（第１部19課）
	ナ形 ~~だ~~ －である	**慎重である**＋の　＋にひきかえ（第１部15課）